

(予告) ガンゲイルオンライン ナベとネコとウサギとサメ(仮題)

通りすがる傭兵

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは、ネコミミ付きヘルメットと、鍋をかぶつて戦う男女の物語である。

リアル友人との妄想を形にしてみました、やる気が出れば書きます。

目

次

(予告)

ガンゲイルオンライン

ナベとネコとウサギとサメ(仮題)

1

(予告) ガンゲイルオンライン ナベとネコとウサギとサメ (仮題)

「B o B どうだつたタフイ? 忙しくて見られなくてさー」

「予選で対物ライフルに粉碎された」

「O h……」

赤い夕日が照らす荒野。

物陰でゴテゴテアクセサリをつけた近代ライフル『H & K H K 4 17』を構え、スコープを覗き込むタフイは溜息をつきました。

「まーさかあんな綺麗にカウンタースナイプが決まるとはなあ」

「上には上がいるということだにやーん」

その隣では双眼鏡を覗き込む彼の相方、リンクスがニコニコと笑つていました。

「でも良い経験にはなつたでしょ?」

「まあな」

「……つと、東南東、3人パーティだね。

やる?」

「カウント10」

「かしこまりだにやー」

タフイの隣に伏せていたリンクスは体を起こすと、スリングでかけていた獲物を構えました。

パステル色に近いサンドイエローの野戦服に、女子ウケしそうなネコミミのついたヘルメットを被っていました。その人間味のない縋に割れた藍色の瞳孔は獲物を前にギラギラと輝いています。

リンクスは女子にしては大型の体格を隠すように腰を折つて身をかがめ、先ほど見つけた集団の裏側にある岩へ移動します。

『もうちよいと配置につくにやーん』

「カウント、10、9、8……」

タフイはヘルメットから覗く髪をうずつたそうに払いのけ、スコープを覗き込む。

狙う集団も彼らと同じPKなのか、はたまたただの物好きなのか実弾銃を装備しています。

その中でタフイは一番危険度の高そうな、サブマシンガン『MP5』を下げるプレイヤーに狙いを定めます。

「3、2、…：今」

『ふしゃーつ！』

タフイが引き金を引きしぶり、MP5装備のプレイヤーの頭から赤いポリゴンを散らせると同時に、背後から散弾銃『イサカM37』を装備したリンクスが飛びだします。

「な、何が?!」

あつたんだ、といいかけたプレイヤーの頭部を12ゲージのスラッグ弾が根こそぎ削り取つて行きました。

「クソツタレが！」

「あ、やべ」

ヘッドショットされたプレイヤーがやつと地面上に身体がついた頃、最後の1人がリンクスに銃を突きつけます。その時、「やあああああっ！」

ぱたたたた、と軽い銃声が響いて最後の1人が0人になりました。反射的にリンクスがその方向へ銃を向け……笑つて構えを解きました。

「レンちゃん久しぶりだにゃん」

「リンさんも、お久ー。つて事は？」

「タフイもいるよー」

「…：バラすなし」

100メートルほど離れていた物陰からタフイが身を起こし、ちんちくりんの姿をあらわにしました。

ある人は、GGOにおいてプレイヤー同士の会話とはこれすなわち銃弾である、とのたまつたそうですが、「この後暇でしょ、お茶すりゆ？」

「すりゅー！」

「これだから女子は……」

普通の会話も、あるのです。

ソードアート・オンライン・オルタナティブ ガンゲイル・オンライン  
イン

ナベとネコとウサギとサメ、時々毒鳥。

「元気してた？ 最近見なかつたらからサー」

「リアルが忙しくってねー」

「へい」

「ところでリアルでさー、見つけちゃったのよ、そりやもう立派な…… 猫耳カチューシャを！」

「へー」

「なんで！ 猫耳かわいいじゃん！ この前タフイにつけたらかわいいからレンちゃんもつけられきつと

「おい」

「なにさー」

「なんで俺男子なのに女子会？」

「見た目が女子っぽいから（にやー）」「

「うがーつ！」